



興味深いことに博士が提示した10の意識段階は、中国の十牛図に対応して

いると思われる。十牛図は、禅において悟りにいたる（宇宙意識と一体化す

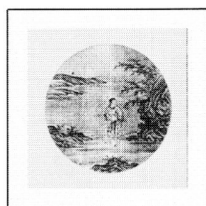


一致する禅の悟りの境地

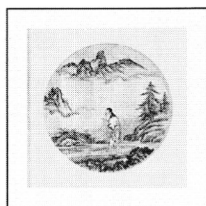


レベル9…本質・メタプログラミング

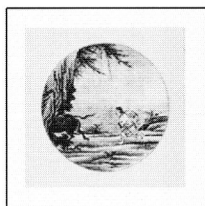
レベル10…未知の領域



① 尋牛



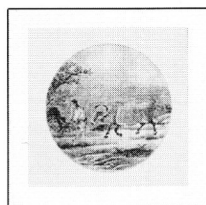
② 見跡



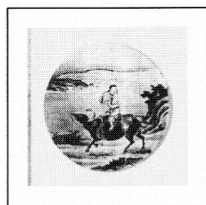
③ 見牛



④ 得牛



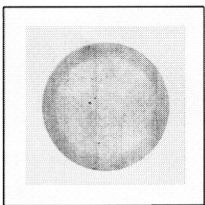
⑤ 牧牛



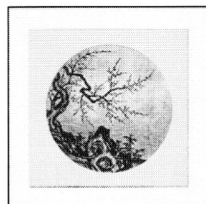
⑥ 騎牛帰家



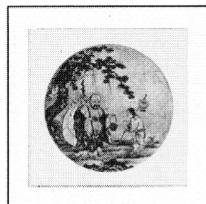
⑦ 忘牛存人



⑧ 人牛俱忘



⑨ 返本還源



⑩ 入陂垂手

↑十牛図。禅において悟りにいたる（宇宙意識と一体化する）10の段階を描いたものだ。



シュタイナーによる宇宙の輪廻



禅など仏教では、人間は輪廻を繰り返すことによって進化をしていくとされる。そしてリリー博士は、それと実質的に同じ様相を人間の意識に見た。この輪廻転生の世界観を、宇宙規模

にまで広げたのが、オーストリアやドイツで活動した神秘思想家にして哲学者、さらには教育者でもあったルドルフ・シュタイナー（1861～1925年）だ。

る）10の段階を10枚の図と詩で表したものだ。真の自己が牛の姿で表されているので十牛図といい、真の自己を求める自己は牧人の姿で表されている。十牛図における各意識の段階も、簡単に紹介しておこう。

① 尋牛…仏性の象徴である牛を見つけようと発心したが、牛は見つからない状況。人には仏性が本来備わっているが、それを忘れ、分別の世界に陥って仏性から遠ざかっている。
② 見跡…経典や教えによって仏性を求めようとするが、分別の世界からはまだ逃れられない。
③ 見牛…行においてその牛を、実地に見た境地。
④ 得牛…牛をつかまえたとしても飼いならすのは難しく、ときには姿をくらます。すなわち、ときどき通常の意識に戻ってしまうことを表している。
⑤ 牧牛…本性を得たら真実の世界が広がるので、つかまえた牛、すなわち悟る。このように十牛図にも、人間の意識の進化が示されていたわけだ。

*

⑥ 騎牛帰家…心の平安が得られれば、牛飼いと牛は一体となり、牛を御する必要もない。すなわち真の自己と真の自己を求める自己が一体化した状態。
⑦ 忘牛存人…家に帰ってくれば、牛をつかまえてきたことを忘れ、牛も忘れる。すなわち神我一体の境地。
⑧ 人牛俱忘…牛をつかまえたようにした理由を忘れ、つかまえた牛を忘れ、つかまえたことも忘れる。すなわち宇宙意識との一体化を示している。
⑨ 返本還源…何もない清浄無垢の世界からは、ありのままの世界が目に入る。完全に覚醒した状態。
⑩ 入陂垂手…悟りを開いてもそこに止まらず、再び世俗の世界に入り、人々に安らぎを与え、悟りへと導く段階。

*